

## 第2回バス産業勉強会 議事概要

開催日時：平成20年11月19日（水）15：00～17：00

会場：国土交通省10回共用会議室B

事務局より資料説明、事業者からの取組状況の説明の後、質疑応答及び意見交換。  
主な事項は以下の通り。

○運営しているバス路線を意味付けして仕分けということは非常によいこと。そのためにも、事業者から情報を開示して明確化する必要があるし、地域も行政を中心としてその仕分けを考えていかなければならない。

○事業者が維持する部分、地域が支えていく部分、さらに小さな生活エリアに入っていくコミュニティ交通部分、それぞれについて責任を持って分担をしていかなければ地域の公共交通は持たなくなっていくのではないか。

○ICカードの導入はバス産業にとって革命。ICカードにより乗降人数などをデータ化することは、大きな変化であり、事業経営に寄与。

○市町村レベルでバスに対する温度差がある。バスには公共性はあるが、企業経営者としては、グループ全体も含め、合理的な判断が必要となる。

○地方の事業者はグループ企業を通じて各地域とのつながりが非常に強いため、路線の維持こそが地域貢献という認識で頑張っている。しかし限界に達して、路線からの撤退となった場合、その後の交通をどうするのかということ在地域公共交通会議等の場で真剣に考えていかなければならない。

○不採算なので路線廃止するというのは、企業の論理としては正しいが、生活交通の確保として退出後の交通について一工夫する必要があるのではないか。そういう意味で、「住民参加」というのは一つのキーワードになる。

以上